

令和元年9月6日

東松島市議会議長 大橋 博之 様

(会派名) 清風・公明

代表者氏名 五ノ井 惣一郎



### 会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

#### 記

#### 1 会派活動の項目 (該当を○で囲む)

調査研究費、 研修費、 広報費、 広聴費、 要望・陳情活動費、 会議費

#### 2 活動場所：

- (1) 北海道石狩市
- (2) // 恵庭市
- (3) // 千歳市
- (4) 航空自衛隊千歳基地

#### 3 実施期日：

令和元年8月6日(火)～8月8日(木)

#### 4 視察項目及び内容等

実施日	視察場所	視察内容	目的
6日 (火)	石狩市	1 子育て支援事業について (こども未来館あいぽーと) 2 道の駅「あいろーど厚田」	1 先進地の特出すべき施策を学び本市の子育て事業の資とする。 2 建設経緯運営状況等について視察し、本市道の駅建設の資とする。
7日 (水)	恵庭市	1 学童クラブ・子ども広場について	1 現状を視察し、東松島市が今後行う民営化への資とする。
	航空自衛隊千歳基地	1 基地の任務等	1 松島基地との相違について知る。
8日 (木)	千歳市	1 基地対策 2 防災学習センター「そなえる」について 3 観光事業について (千歳水族館の運営)	1 基地対策事業の資とする。 2 各種防災対策および教育の現状を視察し、防災教育の資とする。 3 本市の観光事業施策の資とする。

#### 5 その他

- (1) 行程表(移動手段を含む)、参加者名簿、説明・質疑等事項等別紙のとおり。
- (2) 北海道視察間の移動は、全行程車両(レンタカー利用)



## 令和元年度第1回視察報告

## 1 視察期間

令和元年8月6日(火)～8月8日(木)

## 2 視察時程

月 日	時 間	場 所 等	備 考
8月 6日 (火)	06:30	東松島発	ANA3147
	07:30	仙台空港着	
	08:20	仙台空港発	
	09:25	千歳空港着	
	10:30	千歳空港発	
	12:00	石狩市役所着、昼食	
	13:30	視察開始	
	17:00	視察終了	
	18:00	ホテル着	琴似グリーンホテル泊
7日 (水)	08:30	ホテル発	昼食 川原議員による紹介 基地司令に表敬 ホテルグランテラス千歳泊
	10:00	富良野市役所着(視察)	
	12:00	視察終了	
	12:00	昼食	
	13:00	北恵庭駐屯地見学	
	14:30	千歳基地見学	
	17:00	視察終了	
	17:20	ホテル着	
8日 (木)	08:30	ホテル発	昼食 ANA3150
	09:00	千歳市市役所着	
	12:00	視察終了	
	14:10	千歳空港発	
	15:20	仙台空港着	
	17:00	東松島着	

## 3 参加者名簿

	氏 名	役 職
1	五ノ井 惣一郎	会派代表、議運副委員長、総務常任委員会委員
2	熱 海 重 徳	会派副代表、産業建設常任委員会委員
3	上 田 勉	会派幹事長、民生教育常任委員会委員長
4	土 井 光 正	会派事務局長、総務常任委員会委員
5	手代木 せつ子	民生教育常任委員会委員、広報常任委員会委員

## 4 視察状況

## (1) 視察内容の検討

年度計画に基づき、夏場の天候等の影響を受けにくい北海道地域選定し環境・教育・福祉事業・観光事業などの課題について調査すべく調整したが受け入れ先の事業や活動可能日程の状況により、「石狩市」「恵庭市」「千歳市」「航空自衛隊千歳基地」に対する視察となった。

石狩市では、子育て支援事業と道の駅「あいろーど厚田」。

恵庭市は、学童クラブ・こども広場。

千歳市では、基地対策・防災学習および観光事業。そして、千歳基地を見学。

計画外として、恵庭市議の計らいで、陸上自衛隊北恵庭駐屯地の見学を行った。

以下各視察内容について記す。

## (2)石狩市

### ア 地勢等

札幌市の北側に隣接し、石狩湾に臨む水に恵まれた環境にある。17世紀の初頭の慶長年間、松前藩が石狩場所をもうけたことを機に、サケの交易で大いにぎわい、河口部流域が「場所」（交易を行う範囲）に指定されたことや交通の要所であったことから、西蝦夷地の中心地として重要な役割を果たしてきた。



昭和40年に入ってから札幌市のベッドタウンとして宅地化が進み、石狩湾新港の建設と工業団地の造成で急速に発展した。

近年、石狩湾新港をベースにした国際的な文化・経済の拠点として、めざましい発展を遂げている。

総面積は722.42平方キロ。東西に28.88キロ、南北67.04キロ。西側一帯は石狩湾に接している。

### イ 市名の由来

市名の「石狩」は、市を流れる石狩川からできた名前前で、先住民であるアイヌ民族の言葉で石狩川を指す「イシカラペツ」に由来している。その意味は「曲がりくねって流れる川」また「神様がつくった美しい川」と言われている。

### ウ 人口

総人口：58,308人（11）

男：28,146人（2）

女：30,162人（9）

世帯：27,785世帯（30） 令和元年7月末現在（）内は前月比

### ●こども未来館あいぽーと

こども未来館は、子どもたちの健全育成に関する総合的な機能を持つ大型児童センター（児童館）。

「特定非営利活動法人こども・コムステーション・いしかり」が、指定管理者となっている。

対象は0歳から18歳までの子どもたちで、小学生から高校生までの児童は自由に来館し、利用している。また、館内に乳幼児と保護者が集う子育てひろばや、登録制の放課後児童館も併設している。

こども未来館は、子どもたちの「あそび」の場として学校や家庭とはまた違った、子どもたちが自分で楽しさを発見し、成長していく場。

敷地面積：約3,571㎡、建物面積：約1,021㎡、事業費(建設費・付帯工事・消耗品含)：約6.4億円。

石狩市では、これまで、子育て支援施策を総合的に推進してきたことを踏まえ、次世代育成支援の基本的な考え



方を踏襲し、「石狩市子ども・子育て支援事業計画」を策定。

こども未来館は、特定非営利活動法人こども・コムステーション・いしかりが、石狩市の指定管理者として運営し、主要な施設として、プレイスペース、創作活動室、キッチン、ラウンジ、本・PCコーナー、文化活動室がある。

①プレイスペース

スポーツなどに使われる場所。身体を使うあそびの場や、イベントなどの会場としても使われている。

②創作活動室

手芸・工作や理科系の体験などに使われる場所。ボードゲームもそろっている。

③キッチン

子どもが自分で料理することができる、本格的なキッチン。

④ラウンジ

テーブルがあり、ボードゲームで遊んだり、本を読んだり、自由に過ごすことができる。

⑤本・PCコーナー

図鑑・小説・コミックなど、いろいろなジャンルの本を用意している。PCコーナーは登録制で利用でき、調べものなどに使うことができる。

⑥文化活動室

中高生が音楽・ダンスなどに利用できるスタジオ。唯一エアコンが効いているところ。（利用は登録制）

エ 所見等

(ア)施設内は整理され、子供たちがそれぞれの空間を楽しく利用していた。

建物は環境に配慮し、高断熱・高气密、利用者は年々増加している。

多くの異年齢児童の居場所・活動の場として活用されており大きな問題は出ていない。

夏場は、自転車、冬場はバスを利用しての利用となり高校生も多く利用している。

特色ある運営として、「子供会議」・「スタジオ会議」がある。

「子供会議」は、小学3年生から高校生で構成され自分たちで考え、子供まつりなどの企画や日常のルールの検討などを行っている。

「スタジオ会議」は、中学生・高校生のダンス・バンドグループで構成されており、使い方・ライブの企画実施を行っている。

(イ)効果は、引きこもりがちの子供などにも成果がある。

異年齢児の生活の場は、放課後等の対策にも役立ち、かつ、登校していない、登校できない子供のための教育支援教室や引きこもり児童生徒の利用など不登校対策になっている。





(ウ)課題解決にむけて積極的に動き始めている。

子供たちの自主的な活動の環境作り、安全安心の施設作り、地域住民・学校当との情報共有と協力態勢の構築が重要であり、児童等アンケートの実施、パブリックコメント等を利用しての活動を推進しようとしていた。

(エ)火曜日の午後1時30分から3時までの間であったが、小学生低学年から中学生まで多くのこともたちが利用していた。

こんな施設が地域を活性化するのではと感じた。  
担当した職員の皆さん、指定管理者に感謝する。

### ●道の駅「あいろーど厚田」

国道231号沿いに初めてできた全国でも珍しい3階建て、道内120番目の道の駅。

平成30年4月オープン。敷地面積：24,471㎡、延べ床面積：1,333㎡。駐車場収容台数約200台。

最上階のデッキフロアからは、雄大な日本海や厚田の街なみを眺めることができる。

また、1階には厚田産そば粉を使用した十割そば屋、2階にはジェラート屋、ピザ屋、そしてニシンと数の子の親子バッテリーを提供するお店など地元の食材を使用した飲食店が4店舗あり、ガラス張りの飲食スペースで景色を見ながら食事をするができる。

1階には物販コーナーもあり、石狩関連の食べ物やグッズが多く並んでいる。

その他にも、地域の自然や歴史、文化を紹介するコーナーもあり、かつて厚田地区がニシン漁で栄えていた頃の様子や北前船のジオラマが展示されているなど見ごたえ十分。

30年度入り込み客数、612,702人。今年度は、7月末まで約24.5万人  
オ 所見等

「こども未来館あいぽーと」の視察終了後、約40分かけて目的地に到着。

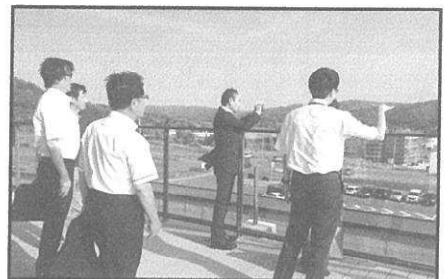
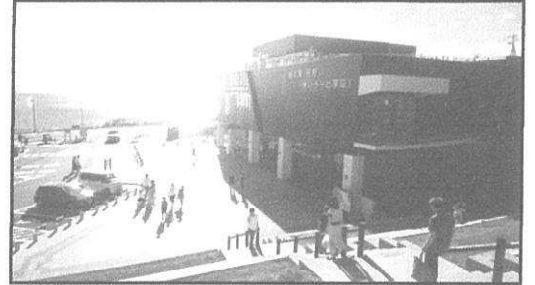
支所職員が待ち構え早速現地での説明等を受けた。

施設の概要や運営状況などは、前述の通りである。

当道の駅は、石狩市北部(厚田区、浜益区)への観光振興と地元産品を活かした商品の販売等、物産振興により地域の活性化を図り、通過する道路利用者様へのサービスの提供のみならず、広域的な防災拠点としての役割、地域コミュニティーの場として、機能がある。

当施設3階の展望デッキや、「厚田公園展望台」からの夕日は絶景という。

少子高齢化と人口減少で益々過疎化する地域で暮らし続ける住民の将来への不安を解消する地域活性化の解決策、地域課題を解決する糸口として、厚田の魅力を、都会では味わうことのできない貴重な“癒しの空間”を提供、厚田に行くと、「“ゆっくり・ゆったり”、時を忘れ、自然と触れ合い、人と触れ合い、新鮮な食と出会い、溜まったス



トレスを厚田の自然に置いて、代りに心豊かな気分を持ち帰ることができる」、厚田ならではの仕掛け・仕組みづくりが複合施設のコンセプトのもと、設計されている。

(ア)位置が新消防署、新小学校の近くであり活性化の一助となっている。

人口減少は急速であるが子供の集う場所、観光客の入り込みとしての場所設定は成功とみる。

(イ)避難場所としての活用が十分期待できる。

(ウ)冬期間の入り込みは激減するが、雪の降るまでの期間は、観光客は多い。

12月から2月までは、前年度月平均約7000人であった。

(エ)休憩場所としては、留萌市との中間位置であり、客が見込まれ成功とみる。

(オ)午後4時から5時まで各階の展示空間を視察したが、北前船とニシン、厚田の自然・歴史など郷土資料を大切にしている姿は、すばらしかった。



### (3) 恵庭市

北海道恵庭市は、札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置し、恵まれた交通アクセスと穏やかな気候風土を持つまちで、早くから住宅地整備を進めると共に、公共下水道や大学・専門学校、工業団地などの都市基盤の整備が進められた。

市の観光スポットとして、最近では市民主導による花のまちづくりが盛んで「ガーデニングのまち」として全国的に知られる。

現在、第5期恵庭市総合計画（平成28年度～平成37年度）では、将来都市像を「花・水・緑 人がつながり 夢ふくらむまち えにわ」とし、「時代に沿った地域運営」、「暮らしの安全安心」、「次世代へつなぐ自然環境」、「人と人とのつながり」、「情報発信・魅力PR」の5つの「まちづくりの視点」を明らかにして施策を推進している。

ア 人口：68,895人（男33,625人・女35,260人）（平成25年6月末）

世帯数：31,054戸（平成25年6月末）

イ 面積：294.65平方キロメートル（平成27年3月現在）

千歳市（594平方キロメートル）の約半分、北広島市（120平方キロメートル）の約2.5倍

ウ 由来等

アイヌ語の「エエンイワ」（現在の恵庭岳を指し、鋭くとがった山という意）から転訛されてきたと言われていいます。



### ●複合施設「えにあす」

JR恵庭駅西口エリアに公共、民間の両機能が融合した複合施設「アルファコート緑と語らいの広場」として18年4月1日にグランドオープン。

愛称は「えにあす」（恵庭の「えに」と明日の「あす」を合体）。

アルファコート(本社・札幌)が建設と管理運営を担い、恵庭市が床の一部を賃借するリース方式で整備していた複合施設。

市有地7674m<sup>2</sup>で、30年間の事業用定期借地権設定契約を締結した。

規模はS造、2階、延べ3703m<sup>2</sup>。

公共部分(2355m<sup>2</sup>)に市民活動センター、保健センター、夜間・休日急病診療所、図書館恵庭分館の機能を移転。学童クラブと子どもひろば、子育て支援センターを開設。

災害発生時の収容避難所として指定する。

民間部分(1348m<sup>2</sup>)には、宮の森スポーツ倶楽部、セイコーマート、地域FM放送e-n i w aが入る。駐車場は120台分、駐輪場は100台分

館内の貸会議室などの有料施設は、市民活動をされている皆さんの活動拠点として会議や打合せ、サークルなどに利用できるほか、エントランスホールやロビー、カウンター席は、無料で読書や学習、打合せなど利用できるスペースとなっている。

## エ 所見等

### (ア)市民のサードプレイスをつくる。

本施設は、単なる複合施設でなく本事業で整備する公共施設は、図書館の他に学童保育・保健センター・市民活動センター・夜間・休日急病診療所があり、スポーツ系施設は学童の習い事や保健センターが担う市民の健康サポート等、公共機能とサードプレイスに重要なカフェ機能、さらに、図書館がサードプレイスとなるように、「温室図書館」「ガリ勉天国」「絵本ハウス」など、大空間の中に居心地の良い小さな空間を盛り込んでいる。

### (イ)公共事業のマネジメント

公共施設を集約し効率的に運用するために、定期健診や学童保育など使用時間の限られた部屋や通路を、様々なイベントや会合など部署を超えた共同利用ができるように計画している。

### (ウ)集いと公共の場としての利用が充実している。

「えにあす」には、民間機能としてスポーツクラブ、コンビニエンスストア、地域FM放送を設置し、公共施設として、市民活動センター、保健センター、夜間・休日急病診療所、図書館恵庭分館が移転し、併せて学童クラブや子育て支援センターなどの公共機能がある。

市民活動センターでは、市民活動の拠点としてホールや会議室、クッキングスタジオなどがあり、エントランスホールやロビー、カウンターの席は、読書や学習、交流の場として利用されている。

### (エ)公共機能と民間施設との一体的事業展開の成功が見られた。

公共施設マネジメントの観点から、駅周辺における公共機能の集約と、民間施設誘致による賑わいの創出が成功しているように見受けられた。



## ●陸上自衛隊北恵庭駐屯地

陸上自衛隊 北恵庭駐屯地は、北海道 恵庭市に所在する第 72 戦車連隊や第 11 戦車大隊が駐屯している駐屯地。

主力装備として 90 式戦車が多数配備されている。戦車中心の北恵庭駐屯地には戦車についての資料が展示されている戦車記念館があり、記念行事などの一般公開で見学ができる。

記念行事では、グラウンドではなく駐屯地中央道を会場として観閲行進や訓練展示が実施され、グラウンドよりも間近で戦車などを見られるのが特徴。

第 7 師団隷下の部隊も参加して装備品展示なども行われ、機甲科装備をたくさん体感できる駐屯地。

### オ 所見等

昼食後、川原議員の調整により、急遽市の地域防災マネージャーの谷口氏の同行えて、駐屯地正門近くの戦車を見学した。駐屯地内では、90 戦車の訓練状況を見ることができた。

近くで戦車を見る機会が少ないため優れた陸自の防衛装備品の現状を確認できた。



## (4)千歳市

### ア 市勢等

北海道の中南部、石狩平野の南端に位置する千歳市は、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接し、札幌市へは北へ 40km、JR快速電車 で約 30 分の至近距離にある。

市街地の標高は 15m 前後の低地となっていて、国内では最も低い 25m 前後の分水嶺が飛行場の付近にあり、江戸期には千歳川などを利用する北海道内部の河川交通の陸上部分・シコツ越えの地として栄えた。

市域の西部は山岳地帯で国立公園支笏湖地域を形成し、市街地は支笏湖を源とする千歳川の沖積地に広がり、飛行場・空港、工業団地、自衛隊駐屯地・基地などに、東部は丘陵地帯で自然豊かな農業地帯となっている。

終戦後、米軍が接收・使用していた千歳飛行場に、昭和 26 年、民間航空が再開され、これにより千歳は北海道の空の玄関口。63 年には民間航空が分離、新千歳空港が開港し、現在 3000m 級の滑走路 2 本を有し、国内外 43 路線、年間乗降客 2045 万人（平成 27 年実績）と国内有数の空港。

千歳市民の誇りである支笏湖は約 4 万年前に支笏火山の大噴火でできたカルデラ湖で、面積が国内 8 位、最大水深及び貯水量は国内 2 位の大きな湖。

支笏湖の周囲には世界でも珍しい溶岩円頂丘（ドーム）が北海道の天然記念物に指定された樽前山（1,041m）のほか、昭和 47 年に開催された冬季五輪札幌大会で滑降競技の





会場となった恵庭岳(1,320m)など1,000m級の山々がそびえている。

千歳の旧地名は、アイヌの人たちの言葉でシコツと呼ばれ、「大きくほ地又は谷」という意味で、大空に鶴が舞い、川にはサケが遡る、自然にあふれた大地でした。

文化2(1805)年、シコツ場所担当の箱館奉行調役並山田鯉兵衛嘉充が箱館奉行羽太正養に、新しい地名を名付けてほしいと願い出ました。そこで、シコツの地には多くの鶴がいることから「鶴は千年、亀は万年」の故事から『千歳』と命名した。

## イ 人口

総人口 97,315人

男性 49,357人

女性 47,958人

世帯 49,967世帯

令和元年8月1日現在

面積 594.50km<sup>2</sup>

## ●基地対策

国防は、国民の生命・財産を守るため、国の重大な任務であると認識。

千歳市には、陸・空の第一線部隊が所在し、北方防衛の拠点。

航空自衛隊では、昭和32年に千歳基地が開設しF-86Fジェット戦闘機が配備されて以来、現在運用しているF-15戦闘機まで、50年間、最新鋭のジェット戦闘機が配備されている。

これまで、運用機種の変更、昭和53年の東側滑走路の南方1,000メートル移動、昭和63年の新千歳空港の開港など、飛行場の騒音は低下傾向にある。

しかしながら、「国防に伴う諸障害は一部の国民のみが負担するものではなく、広く国民全体が負担すべきである。」との考えのもと、下記の事項について要望しており、近年、要望の成果として、住宅防音工事に係るストーブの機能復旧、建具の機能復旧、全室防音工事などが制度化されている。

### ①国に対する制度の改善・拡充の要望について

- ・エアコンを設置すること。

防音工事はしているが、エアコンが無いいため夏季には窓を開けざるを得ないことから、防音機能を発揮できない。

- ・告示後住宅についても防音工事を施工すること。

現在は、昭和57年3月の告示の前に区域内に建設された住宅が防音工事の対象となっているが、告示後に新築された防音工事の対象とならない住宅が増加している。

- ・防音工事の対象を70Wまで拡大すること。

国の対策は、75WECPNL(うるささ指数)以上の地域内の住宅しか防音工事の対象となっていないため、環境基準の1類区域内の70Wを満足していない。

(航空機騒音に係る環境基準は、騒音の平均値であるW値で表し、第1種・第2種住居専用地域などは、基準値が70W以下となっている。)

### ②自衛隊機の運用について

- ・深夜早朝、土・日、祝日の飛行は避けられたい。

土曜日・日曜日、祝日は全日(終日)、平日は午後10時から午前7時の間は、





飛行を自粛すること。

- ・西側旋回は避けられたい。

飛行場の西側を旋回すると市街地の上空を通過するため、西側旋回を避けること。

- ・市街地方向に離陸する時は、東側滑走路を使用すること。

北風の時は、市街地方向に離陸するため、騒音が大きくなることから1,000メートル南方移動した東側滑走路を使用すること。

その他、各種補助事業を行っている。

#### ○防衛施設周辺対策に関する防衛省補助事業

千歳市には、陸上自衛隊東千歳駐屯地、北千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地をはじめ、演習場、飛行場など多くの防衛施設が所在している。

これらの防衛施設の所在及び自衛隊などの行為により発生する諸障害を防止・緩和するため、市では「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律（環境整備法）」等に基づき、国（防衛省）からの補助金・交付金を活用して施設の整備等を行っている。

#### ○障害防止工事の助成（環境整備法第3条）

自衛隊等の特定の行為（航空機による訓練、射撃訓練、戦車等による訓練）による障害を防止・軽減するために道路、共同受信施設などの特定の施設に必要な工事、学校等の防音工事に対し国（防衛省）からの補助を受けています。

平成29年度はC経路の舗装補修、共同受信施設の更新、小中学校の校舎・講堂の防音機能復旧工事を行っている。

#### ○C経路舗装補修（障害防止）

#### ○民生安定施設の助成（環境整備法第8条）

平成29年度は避難用大型バスの購入、退避施設の整備、千歳市第2庁舎建設の着手及び千歳市防災行政無線デジタル化に伴う実施設計を行っている。

#### ○特定防衛施設周辺整備調整交付金（環境整備法第9条）

市は国（防衛省）から公共施設の整備や生活環境の改善などの事業費用として、特定防衛施設周辺整備調整交付金（調整交付金）が交付され、生活道路の改修・舗装、公園の整備・遊具更新、小中学校の大規模改修やデジタル機器などの整備、スポーツ・文化施設の改修などさまざまな事業へ活用している。

#### ○千歳市休日夜間急病センター（特定防衛施設周辺整備調整交付金）

#### ○再編関連訓練移転等交付金

米軍再編に係る訓練移転等の実施による影響の程度を考慮し、住民の生活の安定に寄与に必要な措置を講じるため、「駐留軍等の再編の円滑な実施に関する特別措置法」に基づく再編交付金に代わり、国（防衛省）が平成29年度から10年間の措置として新たに創設された交付金であり、とりわけ騒音が大きい地区における地域振興策の一環として市の総合計画や重点施策をもとに対象事業を選定しており、生活道路の改修・舗装、公園の整備・遊具更新などの事業へ活用している。

#### ア 所見等

航空自衛隊のほかに陸上自衛隊の部隊が駐屯していることから、メニューも多い。

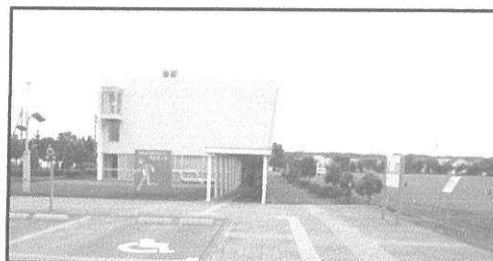
特に、音が大きい地区における地域振興策の一環として市の総合計画や重点施策をもとに対象事業を選定しており、生活道路の改修・舗装、公園の整備・遊具更新などの事業については、当市も活用できないか研究する価値がある。

## ●防災学習センター「そなえーる」



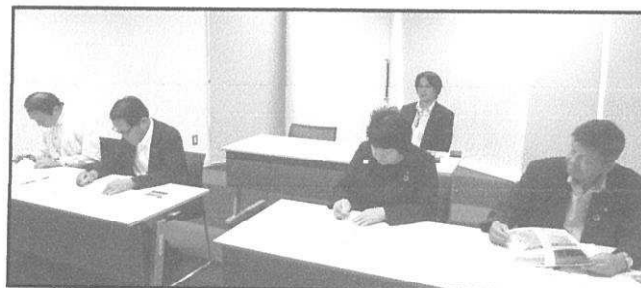
千歳市防災学習交流センター『そなえーる』は、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の擬似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学ぶことができる。

千歳市防災学習交流施設は、防災に関する関心を高め、防災に対する知識・技術が習得できる施設であり、「防災学習交流センターそなえーる」、消火訓練・救出体験訓練ができる「学びの広場」、災害時を想定した野営生活訓練ができる「防災の森」の3つの施設で構成されている。



『学びの広場』では、消火体験広場に設置されている屋内消火栓や水消火器を実際に使用し、使用方法、使用時の注意点及び、火災時の初期消火技術を学ぶことができる。

また、救出体験広場では、自主防災組織等の救出活動 技術向上のための訓練を行うことができる。



### 『防災の森』

#### ・野営生活訓練広場（キャンプ場）

災害時を想定した野営生活の体験を行うことができる広場。

一般のキャンプ場としても使用することができる。

#### ・サバイバル広場

サバイバル広場は自然の中に体力増進のための遊具を設けた広場。

#### ・土のう訓練広場

土のう訓練広場は、大雨による河川の氾濫や、家屋への浸水等の災害時に使用する「土のう」の作り方や、積み方を訓練する広場。

作成した土のうは、河川災害訓練広場での水防訓練や実際の災害に活用する。

#### ・河川災害訓練広場

河川災害訓練広場は、大雨で河川が氾濫した場合など、土のう等による水防訓練を行う広場として活用する。



・多目的広場

多目的広場は、防災学習のため多目的に使用できる広場。また、雨水調整池としての機能も兼ねている。雨水調整池は、河川の氾濫などの水害を抑制するため、雨水を溜めながら少しずつ河川へ流す役割をもっており、雨天時は、この広場に雨水が溜まる仕組みとなっている。



・管理棟

管理棟には、管理人が常駐している。

・学習棟・炊事棟

野営生活訓練を行う際に使用する。学習棟には机、長椅子、炊事棟には水道が設置されている。

また、防災講座や救急講習、自主防災組織の訓練など防災学習の拠点施設としても活用する。



○展示施設

- ・災害学習コーナー
- ・地震体験コーナー
- ・通報体験コーナー
- ・予防実験コーナー
- ・防災情報検索コーナー
- ・煙避難体験コーナー
- ・避難器具体験コーナー

○会議室等

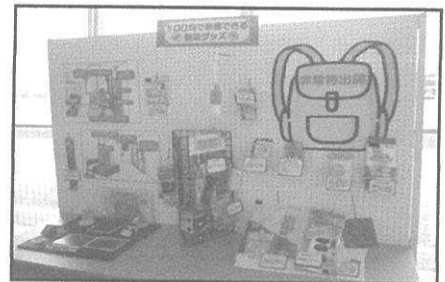
- ・小会議室
- ・防災学習室
- ・屋内訓練室
- ・クライミングボード（山岳救助訓練板）

イ 所見等

当施設は、「障害防止工事の助成（環境整備法第3条）」、自衛隊等の特定の行為（航空機による訓練、射撃訓練、戦車等による訓練）による障害を防止・軽減するために道路、共同受信施設などの特定の施設に必要な工事、学校等の防音工事に対し国（防衛省）からの補助であり、C経路（いわゆる戦車道）の周辺地域の整備として作られたもの、有効活用として、防災訓練等に利用していることは、圧巻である。



展示施設で説明を受け、各コーナーを視察した。  
(ア)災害学習コーナーでは、市内の取り組みなどが紹介され非常持ち出し品、防災グッズなどが展示され、手に取ることにより実感できる。



地震体験コーナーでは、全員で東日本大震災を再度模擬体験。

煙避難体験コーナーでは、視界の効かない煙の中での避難要領を体験した。

予防実験コーナーでは、子供たちが学習に参加し防災教育を受けていた。

屋内施設では、日頃から多くの実習生や見学者が訪れているようである。防災に対する意識の高揚に役立っている。

(イ)見ることはできなかったが、学びの広場で市の防災訓練ができ、発災時は、避難場所になったり、市



の災害本部としても利用できるようになっている。  
システムとしての機能の充実がうらやましい。

## ●千歳水族館

サケのふるさと千歳水族館（平成 27 年 7 月 25 日（土）にリニューアル）は、道の駅サーモンパーク千歳内にあり、淡水では日本最大級の水槽を有する水族館で、館内ではサケや北方圏の様々な淡水魚の生態を観察することができる。

千歳川の水中を直接見ることのできる日本初の施設「水中観察室」があり、四季折々の千歳川の生き物たちを観察することができる。

各種ゾーンがあり特色ある水族館である。

### ・サーモンゾーン

3つの大きな水槽が立ち並ぶこのゾーンでは、サケの仲間が稚魚から幼魚、そして成魚へと成長する姿を見ることができる。

深さ 5m、水量約 300 トンの北海道最大の淡水大水槽では、サクラマスやギンザケ、幻の魚ともいわれるイトウや欧米原産のブラントラウトなどサケの仲間の他、巨大なチョウザメの仲間たちも悠々と泳ぎ、水族館ではここでしか見られないシシャモの展示も必見だ。

秋になると期間限定で、産卵のため千歳川に遡上したシロザケや、オホーツクのカラフトマス、美々川のベニザケなどの親魚も登場するという。

### ・支笏湖ゾーン

支笏湖独特の景観の一つ「苔の洞門」のジオラマを通り抜けると、青色が印象的な支笏湖大水槽がある。

直径 7.2m のこの水槽では、9 年連続水質日本一を誇る支笏湖の美しい水中景観を再現。特に「支笏湖ブルー」と称される深い碧色は、水槽の背景に実際の支笏湖の水中映像を投影し、できるだけ本物に近づけている。

水槽内には“チップ”とも呼ばれるヒメマスの群れや、支笏湖の在来種であるアメマス、ハゼの仲間のヌマチチブや当館と一緒に 20 年以上歩んできたギンブナなどが、バイカモやリュウノヒゲモなど、水中にたなびく水草群落の周りを悠々と泳いでいる。

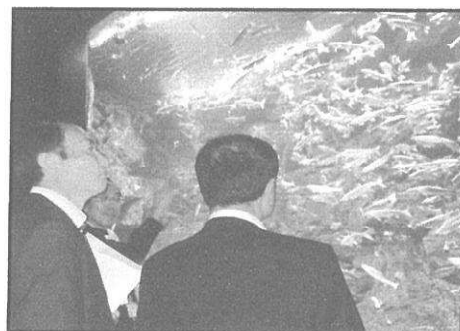
### ・体験ゾーン

チョウザメの赤ちゃんやウグイの仲間たちが泳ぐ、全周透明アクリルのタッチプールや、ドクターフィッシュの体験、アメリカザリガニの釣堀など、生き物たちに触れることができる人気の水槽が並ぶ。

実物大サケ模型は、本物のサケと同じ大きさと重さできていて、手にとってその迫力を体感できる。（展示内容は生物の状態により変更）

### ・カイツブリ水槽

「カイツブリ」は、当館でただ一種類の鳥類。千歳には夏の渡り鳥としてやってくる





この小さな水鳥は、千歳川でも時折その姿を見かけることがあるが、警戒心が強く野外ではなかなか近づくことができない。

#### ・千歳川ロード

支笏湖を抜けて石狩川に合流し、日本海へ流れ出る全長 108kmの千歳川。そんな長い川をコンパクトに上流・中流・下流の3つの水槽に分け、水域毎に異なる魚たちの様子を観察できる。

上流ではサケの仲間や、岩陰に隠れるハナカジカ。

中流ではフクドジョウやウグイの仲間、また産卵期には鳥のように巣作りをするトゲウオの仲間などに加え、近年増えてきた外来種のカメ（ミシシippアカミミガメ）も泳いでいる。

下流にはコイやフナの仲間やウキゴリなどのハゼの仲間、また外来種のカムルチーやタイリクバラタナゴなども展示されている。

#### ・世界の淡水魚

このエリアでは、日本だけでなく東南アジアや北米、南米、アフリカなど、海外の様々な淡水魚たちがいる。

アマゾン川に生息する淡水エイやワニのような顔をした巨大なアリゲーターガー、陸地を飛び跳ねるミナミトビハゼや、時々ジャンプしてお客様を驚かせる。

#### ・水中観察ゾーン

世界の淡水魚ゾーンから地下スロープを下った先に、千歳水族館の最大の特徴ともいえる日本初の「水中観察ゾーン」があります。清流・千歳川の左岸に埋め込まれた長さ 30mほどの部屋には、縦 1m×横 2mの7つの窓が水中に設置されている。

もちろん窓の前には囲いもなく、エサもやらず、日中は人工照明もしない、自然のままの川の中の様子が観察できるようになっている。

春は桜の花びらとともに海へ旅立つサケの稚魚たちと、入れ代わりに産卵のため海から遡上するサクラマスやヤツメウナギ。

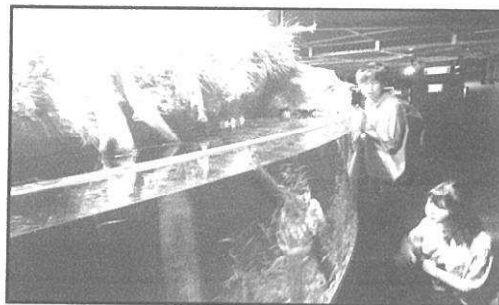
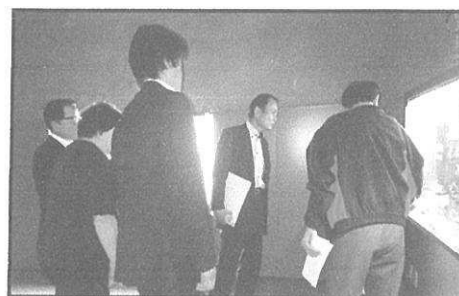
夏は赤い婚姻色に身を染めて窓の前の川底を埋め尽くし、産卵するウグイの仲間たち。そして秋にはサケの群れが遡上し、冬にはサケの産卵行動とその卵を狙って潜水する水鳥の姿など、四季折々に繰り広げられる生き物たちのドラマティックな姿がある。

#### ・展示・学習ゾーン(なるほど！？サーモンルーム)

千歳水族館の入口から2階へ向かうスロープでは、定期的に様々な企画展示を開催。写真や絵画、また常設展示には登場していない生き物たちなどを、期間限定で見ることができる。

2階の「なるほど！？サーモンルーム」では、サケとヒト、そして千歳との関わりを、様々な角度から紹介している。

サケの生態やふ化事業の歴史、またサケが千歳に空港を作るきっかけとなったお話し





などに加え、印刷してお持ち帰りいただけるサケ料理のレシピコーナーも人気である。また、およそ100名が収容できる学習室は、各種体験教室やサケ学習の場としてご利用されている。

#### ウ 所見等

千歳川の水中を直接見ることでできる日本初の施設「水中観察室」は、四季折々川の生き物たちを観察することができるが、実体験の場としては、リピーターの楽しみな場でもある。

当施設は、公益財団法人千歳青少年教育財団が行い、水族館（サケのふるさと千歳水族館）管理運営、教育事業の2事業を行っている。

教育事業ではサケのふるさと千歳水族館で行っているサケふるセミナーなどの体験教室の他、千歳市子ども会育成連合会との共催事業、子ども会活動の中心的な役割を果たすジュニアリーダー、シニアリーダーの育成・研修、夏休み・冬休みの宿泊体験教室などを行っている。

館長が各コーナーを案内・説明してくれました。

(ア)特に千歳川の水中観察は、圧巻。何時間でも見ていれそうであった。

(イ)集客には特に力を入れており、イベントなどのメニュー、子供たちを対象とした学習会を日頃より企画していた。

F Bやツイートで情報発信しており、集客増などを目指している。

(ウ)道の駅サーモンパーク千歳を訪れる人は、ついでに立ち寄る施設として存在価値があるようである。

(エ)午前朝早くから市職員の暖かい接遇に感謝する。



#### 5 航空自衛隊千歳基地・第2航空団

大正15年に、小樽新聞社(現在の北海道新聞社)の社機である「北海1号」(三菱R22型)を是非近くで見たいとの千歳村民の強い希望により、飛行機を着陸させるため、千歳村民の手により、この場所を開墾し離着陸場を造成したのが始まり。

その後、昭和14年から海軍航空隊基地として使用され、昭和20年終戦を迎え、米軍が進駐してきた。

昭和29年以降から米軍が他基地へ移駐し、昭和32年に航空自衛隊千歳基地が開設された以降昭和35年には基地施設の大部分が返還されたものの、昭和51年に全面返還されるまで、米軍の管理下にあった。

昭和26年日本の民間航空機の運行が再開され、10月に北海道の空の玄関として千歳飛行場として運用が始まった。



第2航空団は、昭和31年浜松（静岡県）で国内初の実戦部隊として新編され、翌年、千歳基地に移駐。

昭和33年から、対領空侵犯措置（スクランブル）の任務が開始され、時代と共に戦闘機も更新され、昭和32年F-86、昭和36年F-86D、昭和37年からF-104J/DJ、昭和49年からF-4EJ、昭和58年からF-15J/DJと更新され現在に至っている。



救難機も昭和43年V-107、MU-2が配備され、平成4年にはUH-60J、平成8年にはU-125Aにそれぞれ更新。高射部隊として昭和45年ナイキJが配備され、平成2年からはペトリオットが配備。



官民航空機の航空管制は、千歳管制隊が行っており昭和63年から日本で初めての両面管制が行われる新管制塔での運用が開始された。

基地所在部隊としては、

- ・第2航空団 - F-15J/DJを配備。「北の守り」として重要な部隊であり、スクランブル待機も行っている。



第201飛行隊/第203飛行隊 - 戦闘機にF-15J/DJ、連絡機にT-4を運用。

- ・第2基地防空隊 - VADS・81式短距離地对空誘導弾・91式携帯地对空誘導弾を配備。

- ・第1移動警戒隊 - 移動用車載レーダーで、固定式レーダーを補完し、航空機の探知や攻撃の管制を行う。

- ・第3高射群 - 地对空誘導弾パトリオットを運用。

- ・第9高射隊 - PAC-3を配備。

- ・第10高射隊 - PAC-2を配備。

- ・指揮所運用隊/整備補給隊

- ・北部航空施設隊/第2作業隊 - 千歳基地の土木工事や冬季除雪、道内レーダーサイトの施設工事を行う。



- ・千歳救難隊 - 航空自衛隊や他の自衛隊機が墜落した際、U-125AやUH-60Jで緊急発進して搭乗員の捜索救助活動（航空救難）を実施する。また、民間機の墜落事故の際に東京空港事務所長からの要請で捜索救難活動を行ったり、消防や海上保安庁など他の救難組織が出動困難な悪天候時などには、災害派遣として山岳や海上の遭難者の捜索救出活動、離島・僻地の急患輸送などを行う。

- ・千歳気象隊 - 千歳基地の気象データを常時測定し、気象予報を行う

- ・特別航空輸送隊 - 日本国政府専用機2機の運用及び整備を行う。

- ・第3移動通信隊 - 有事や災害派遣時に通信機器を必要な場所へ移動して、通信を確保する。

- ・千歳地方警務隊



## エ 所見等

事前調整で苦労したが基地内見学では、基地司令表敬、F-15見学・写真撮影、救難隊航空機見学、BXでの休憩等、盛りたくさんの接遇案内に感謝したい。

### (ア) 基地司令表敬

寺崎司令に表敬・基地の任務の状況をも説明してくれた。

終了後、記念撮影した。

### (イ) F-15 見学

高橋広報室長の案内により、航空機説明、各人航空機登場での記念撮影を行った。

### (ウ) 千歳救難隊見学

保有するU-125、UH-60の見学・説明を救難隊操縦士により受けた。

若い操縦士が熱心に任務および航空機の運用などについて説明してくれた。



### (エ) 任務と騒音

基地視察中、4機のF-15が離陸したが、アフターバーナーを使用しての離陸は、騒音も大きいながら急上昇などする性能の高さが印象的だった。

任務多忙中隊員の対応に感謝する。

以上